

平成 28 年度 研究発表会参観者質問に対する回答

研究発表会には、貴重なご指摘・ご質問をいただきまして、誠にありがとうございました。発表会の時間の中で質問を書くというのも珍しい取り組みでしたが、私たちも初の試みでした。大変遅くなりましたが、いただいた 67 通の質問を集約し、その回答をここに掲載します。今回、各項目について、校内の教員の回答したものをリストアップし、最後に補足をする形でお示しします。校内での教員の取り組みと意識がここからも読み取れるかと思えます。

1 自己決定プロセスとはどういうものか知りたい。

- 次に自分（児童）は何をしたいか（児童が）考えながら進む。
- （児童が）自分で課題を見付け、解決方法を見付け、実際に調べ、まとめる。（児童が）新たな課題を見つけ出すこと。
- 何を調べるのか、何で調べるのかなど（児童自身が）自分で考えてやってみる。
- 時間や内容などを児童が考えて、自分自身で判断して進めていく。
- 学習課題やその解決の見通しや過程について、（児童）自ら決定しながら、学習を進めていくこと。
- 児童が学びたい課題について決め、学習を進める。
- 子供（児童）が自ら決定して行動する。
- 子供からの発想、調べ学習、まとめ、発表などのプロセスを子供の考えをベースに進めていくもの。
- （児童が）自分で課題ややりたいことを見付け実行していくもの。児童の発想や考えをベースに進める。
- 「まちが大すきたんけんたい」では、お店の人にどのようなインタビューをしたいかを（児童が）自分でまず考えて付箋に書いた。次に、グループで「Xチャート」を使って（児童たちで）思考の整理をした。最終的にグループで自分（児童）がどのインタビューを行うかを決定した。
- 日々の学習で、関連する生活（体験）や身近な話を学習や学校生活で提供していく。その中で、自分は（児童は）どう考えるかを国語の作文で表現するなど書き残す取り組みをした。そのような蓄積を繰り返すことで（児童自身の）自己決定プロセスは育まれると考える。
- 教師のファシリテートにより、（児童が）主体的に取り組む。（教師が一方的に）させない、やらせない。

ファシリテーターについては「講師寺崎千秋先生への質問と回答集」P.22～26を参照。

上記のように、児童に任せる、そのための教師の役割、教師の授業展開や内容に対する見通しが不可欠。

2 地域コーディネーターの学校の中での 活用の成果 や 他の学校でも生かせることを知りたい。

- 地域を支えてくれる人の顔を覚え、挨拶することができたり、自分たちも地域に協力してみたいと思ったりする子供が増えた。
- 地域の人がどのような取り組みをしているのか（地域で）を調べる必要がある。
児童にとって身近な存在になれるようにすることで地域を近くに感じたことが成果。
- お店体験をお願いする際、地域コーディネーターの方も協力してくださって、とてもありがたかった。地域コーディネーターの制度が初めてだったので、もっとお店を依頼する段階でも関わってもらえることができるとよいと感じた。

- 窓口が1つになっているので、連絡が効率的になる。
- 地域の人材を活用していく際の窓口役があることで、連絡が取りやすくなるのが成果。そうした人材リストなどを個人情報に配慮しながら共有できれば他校でも生かせる。
- 低学年でも高学年でも対象と少しでも多く関わらせたり、触れ合わせたりすることが大切。
- (学校とコーディネーターと)連絡を密に、お互いの情報をもらいあって生かす。
- 人材リストの作成。
- 今回の研究では地域コーディネーターはあまり活用できたとは言えなかった。人材を広げなければ。

地域コーディネーターが窓口としてお店や人とをつなぎ、授業の展開や児童の学習活動を支えて下さり地域の人たちとも知り合う効果があった。ただ今回が地域コーディネーター制度が初めてのこともあり、まだ十分活用できたとはまでは言えなかったところもある。

今後はさらに活用を広めるためにも、地域の人材の情報をリスト化し活用できるようにしていく。学校側でも今までの活動での人材を整理して一覧にする。それとともに、地域コーディネーターやさらに町にいらっしゃる方々の情報を加えていく。人材バンクリストの作成、そしてその活用・充実である。

またもう一つ考えていくことは、上記のこれまでの人材リストとともに、もう一つ、これから必要となる予想される人材リストが考えられる。児童の学習によって、既存の人材リストでは間に合わない事も考えられる。そのときには地域コーディネーターにお願いするが、「 に詳しい方」「の専門家」「地域の50年を語れる人」など人材発掘も行っていく。

これは今後どのような学習を展開するのか、学校のカリキュラム・マネジメントに関わるものである。学校の単元の見通し、教材開発に繋がる事項である。

3 どんな授業の導入をして子供たちをひきつけたのか。

- なぜ、この地域に練馬大根が伝わっているのか。給食の献立の練馬スパゲッティを教材に学習を進めた。(区内の小学生なら誰もが知るメニューで、ツナと大根をおろしたものがスパゲッティにのっている。)
- 身近で誰もが参加したことのある行事を出し合い、どんな行事が話し合った。
- 体験を伴うもの。
- 児童の生活体験から引き出した。
- 身近な題材や子供たちがあまり見たことのない本物の教材などの提示の仕方を工夫した。
- 子供たちの身の回りのことを題材の入り口とした。
- 教材との出会い、課題のもたせ方。
- 児童の身近な話題、地域、生活の根ざしているものや密着しているものが児童をひきつける。
- 前時の振り返りから、今日やること(学習すること)がはっきりするようにした。

児童を引きつけるには、具体的で、身近な、体験できること、もので始める。

4 教師の言葉掛けがどのようにされていたのか。

- 「どうする?」「どうしたいの。」と必ず尋ねる、問い掛ける。

- 児童がどうしたいかを考えられるように声を掛ける。(児童が自分の中で何がしたいか整理できるような言葉掛け。)
- 「どんなことをしてみたい。」「どうやってすすめるの。」など、子供の自己決定を促す言葉掛けや、子供たちの活動を称賛し、価値付けする言葉掛けをした。
- 必要最低限の言葉掛け(を心掛ける)。
- 教師が全て決めるのではなく、子供に任せてみる。
- 子供のやりたいことや知りたいことをすぐ無理と決めつけるのではなく、認めたり、答えを教えるのではなく子供が考えて答えを出せたりできるような声掛け(を行う)。
- 子供たちが課題意識をもつように言葉掛けをした。
- 児童の様子を見ながら答えは決して言わない。
- グループ活動の時には、発表準備のペープサート制作や、台本作りなどを児童の活動に任せていた。友達からのアドバイス以外で言葉掛けが必要だと感じた時に助言をした。良い活動を褒めた。
- 学びのスパイラルです。そして、学びは継続です。どのように学んでいくかを総合的な学習の時間、生活科の時間のみならず、国語や社会科において調べ学習について学んだことを生かせるような掲示物や振り返りを行うことが大切だと思っています。

児童からやり出す、動き出すようにするために、教師はどうか。教師がさせるのではなく、どのように児童のやる気に基づいた言動を引き出すか。

最初の1の質問事項にも関わる教師のファシリテーションが問われるところ。

上記にあるように、まず児童の意思・意向を直接的に聞く、児童の言ったことを教師が繰り返す、言ったことに質問する、「それで」「次は」と次を促す言葉掛け等があげられる。

どうしても考えが出て来ない、というときもあるが、そのときは児童と一緒に考える。または「こんなのはどうかな」とちょっとだけ提案やヒントを必要最低限出すこともあるかもしれない。

時間がかかることもあるが、これも学習経験として、時間を見通す力を付けていく要素としていく。試行錯誤からも学ぶことはある。次回、よりよくことを進めていけるように、児童が気付くようにする。

5 この研究をしたことで教師の指導上どのように意識が変わったのか。

- まず、子供を変えるためには、まず教師が変わらないといけないということ。
- 教師がすべて決めるのではなく、子供にまかせてみる。
- 教師が「させる」学習から、子供が「する」学習に意識が変わった。
- 教師主導ではなく、児童からの思いを聞き、時間はかかってもなるべく任せてみるという活動を意識した。
- 今回、ファシリテーターとしての教師の役割について考えたことで、教師主導ではなく子供(児童)の考えをベースに進めたり広げたりできるように学習を展開できた。
- 子供(児童)の力(伸びる力)を大切にしたいと思った。
- 児童が自分で課題を見付けられるように進める意識。
- 児童の思いを尊重し、叶えていけるように準備していった。
- 児童自らが考え、決定して、行動することの大切さを学んだ。

- 大きな変化はありませんが、基礎的・基本的な学習を（児童が）身に付け、それを生かしていくこと、（児童が）自分の考えをまとめたり、伝えたりすることがグローバル社会においても求められている。まずは、（児童が）自分の考えを伝えること。それを受け取る周囲の子供（児童）たちの聞く耳を、心を育むことが大切だと改めて感じる。
- 他教科でもアクティブ・ラーニングを試してみる。

教科には教科の目標とする学習内容を指導しなければならない。これはその学年・その時期に身に付けさせるもので、教師が指導し学習させる意味合いが濃い。一方、生活科・総合的な学習の時間は、今までの質問の回答のように、教科指導とは異なる。今までの質問項目の回答と共通するところで、ファシリテーターとしての教師の役割を意識し行動するということだ。

ただ今後、この研究を通して身に付けた教育観と指導法を、生活科・総合的な学習の時間のみならず、次はその発展として、今までの教科指導の指導観から脱却して、教科の中でも生かせるものを生かし、他教科で研究方法を広げていこうと考えている。

6 どうやって興味をもたせたり調べたいと思わせたりするのか、本時に至るまでの過程はどのようにしたのか。

- アプローチできるあらゆることを洗い出し、できることからやっていく。
 - ・教材との出会い、課題のもたせ方。
 - ・身近な題材を選んだり、実際に自分たちが関わったりできるようにした。また、子供のやりたいことができるだけ実現できるようにした。
 - ・地域の方をゲストに招いたり、（児童と）地域の博物館に足を運んだりした。
 - ・生活科では教科書があるので、（一例として、ヒントとして）「こんな活動を私たちもしたい。」と興味をもって取り組むことができた。
- 導入や課題設定の時間を十分にとり、児童の興味が高まるよう丁寧に指導した。
- 繰り返し積み上げる。
- 友達との交流、地域の人たちとの交流から整理し、次の課題を決定したり、試行錯誤の時間をとったりした。

児童のやる気を引き出すため、上記のように、工夫できるところから取り組む。

7 生活科では他の単元の時間配分はどのようになっているのか。

- 今年度は、地域の学習時間を多くとった分、他のところ(単元)が少なくなってしまうている。
 - ・「学校探検」「きれいな花を育てたいな」「おうちの仕事大作戦」「2年生に向けて」などの時間配分も行い、年間時数の中で行えるようにしている。（1年）
 - ・「めざせ生きものはかせ」の時間が減ってしまった。その分、教室でザリガニやカブトムシの幼虫などを飼育し、生き物への興味・関心がもてるようにした。（2年）
- 図工や国語科で補えるところはないか、重複している学びはないか、改善・検討する。

今年の実践を振り返り、その成果と課題から、今後カリキュラム・マネジメントが必要と考える。

8

- 知識として学ばなければならない部分（基礎・基本に当たる部分）とアクティブ・ラーニングの手法で

学ぶべき部分（自己決定プロセスのある題材）を教師側が見通しをもって学習のデザインをする。

- 他教科においても児童が自ら課題の解決について自己決定する場面を増やしていく。
- どのような場面でも、自分がどう動けばよいのか、その場における課題は何なのか、課題にどう取り組みればよいのかなどについて、教科や日常の中でも自ら考える機会を多く作ることが広がっていくことに繋がるの。
- やり方はいろいろあるが本校で取り組んだことを生かして、できることをやる。
- 自ら進んで学ぶ。主体的な学びのサイクルを型としてパターン化することで広げることができると考える。
- 「Xチャート」「Yチャート」等の思考ツールは国語の学習でも使うことができた。
- 自分自身の課題である。専科（音楽）では表現の工夫の面で、子供主体で活動できることがたくさんあると思う。また、手立ての一つであった振り返りについては取り入れていきたい。
- 時間配分、内容、質の高さを目標に考えると、すべての教科で行うのは難しい。
- 少しずつ、いつでもできる。

5の項目とも関連するが、教師がファシリテーターとしての役割を意識し行動するということだ。ただ今後、この研究を通して身に付けた教育観と指導法を、生活科・総合的な学習の時間のみならず、次はその発展として、今までの教科指導の指導観から脱却して、教科の中でも生かせるものを生かし、他教科で研究方法を広げていこうと考えている。

9 アクティブ・ラーニングの手法と他の手法との違いはなんだったのか。

- 子供自身が進める。
- 児童の気付きを大切にした。
- 子供が中心の指導法。
- 「聞いて、助けて、任せて、見守る」と「させる」学びとの違い。
- 児童主体の自己決定。ただし教師はファシリテーターとして助言、アドバイスをする。
- (児童の)主体的な学び、教師のファシリテート。
- 子供にまかせる。失敗も子供の経験として学びとする。
- 子供主体が進めることは、他の手法（教師主導）と比べ、時間が多くかかること、失敗が多いことだと思います。
- 私は、アクティブ・ラーニングの手法と他の手法の最たる違いは、様々な視点をもつこと（多様性）、そして、クリティカル・シンキングだと考える。
- 今までに使用してきた手法との違いはないと思う。ただ、この手法を使うことで、主体的な学びにつながっていけるということから、アクティブ・ラーニングの手法と呼んでいるだけだと思う。

上記の通り、アクティブ・ラーニングは児童が主役の授業。そのために教師の役割はどうか、児童が進める上で失敗もするがそれも学びに変える、時間もかかるがそれも含んでの学習であることを認識し、展開を考えていく。今後、さらに児童が主体的に学べる手法を校内で他教科でも研究していく。

..... アンケートご協力、誠にありがとうございました。